

予 算 要 求 資 料

令和6年度当初予算

支出科目 款：教育費 項：教育総務費 目：教育指導費

事業名 理数教育フラッグシップハイスクール事業費

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

教育委員会 高校教育課 高校教科教育係 電話番号：058-272-1111(内8670)

E-mail：c17786@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 11,500 千円 (前年度予算額：11,500 千円)

<財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財 産 収 入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
前年度	11,500	3,971	0	0	0	0	0	0	7,529
要求額	11,500	3,971	0	0	0	0	0	0	7,529
決定額	11,500	3,971	0	0	0	0	0	0	7,529

2 要 求 内 容

(1) 要求の趣旨(現状と課題)

社会の多様な場面でグローバル化が進む中、高等学校は「社会を生き抜く力」の確実な養成が求められている。そのため、現代社会で求められる、「根拠をもって思考する力や説明する力」、「課題を見つけ解決する力」を身に付け、グローバルな視点をもって科学技術の発達に貢献できるグローバル・リーダーを育成することが重要である。

(2) 事業内容

新学習指導要領において、普通科の生徒も履修が可能な新科目「理数探究」が設置された。県では、主体的、協働的に自ら学ぶことのできる生徒の育成を推進するため、探究的な学習(課題発見・解決学習)のカリキュラム開発を支援する。

(3) 県負担・補助率の考え方

県負担10/10

(4) 類似事業の有無

無

3 事業費の積算 内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
報償費	1,070	外部講師謝金
旅費	3,905	外部講師旅費、先進校視察等
消耗品費	3,403	探究活動用実験器具等
印刷製本費	286	研究報告書
役員費	33	ガイド料
使用料	2,762	会場使用料、バス・タクシー使用料等
交付金	41	生徒研究助成等
合計	11,500	

決定額の考え方

4 参考事項

(1) 各種計画での位置づけ

・第4次岐阜県教育ビジョン

施策Ⅱ 「未来を創る確かな学力と実践力」の育成

10 科学技術・情報技術やものづくりへの関心の醸成、起業家精神等の育成

事業評価調査書（県単独補助金除く）

新規要求事業

継続要求事業

1 事業の目標と成果

（事業目標）

・何をいつまでにどのような状態にしたいのか

主体的、協働的に自ら学ぶことのできる生徒の育成を推進するため、探究的な学習（課題発見・解決学習）のカリキュラム開発を目指す県立高等学校5校を「理数教育フラッグシップハイスクール」に指定し、重点的に支援し、その成果を県内に普及する。

（目標の達成度を示す指標と実績）

指標名	事業開始前 (R)	R4年度 実績	R5年度 目標	R6年度 目標	終期目標 (R10)	達成率
①科学技術に関する全国学会・コンテストでの入賞数		19	30	30	30	63.3%

○指標を設定することができない場合の理由

（これまでの取組内容と成果）

令和2年度	オンラインを利用し、SSH校及び理数科でこれまでに行われてきた課題研究の手法及び指導法の県内高等学校への普及をした。また、大学、研究所等の外部機関と連携した課題研究を実施した。
	指標① 目標：30 実績：18 達成率：60.0%
令和3年度	オンラインを利用し、SSH校及び理数科でこれまでに行われてきた課題研究の手法及び指導法の県内高等学校への普及をした。また、大学、研究所等の外部機関と連携した課題研究やフィールドワーク、他県の生徒との科学学習会を実施した。
	指標① 目標：30 実績：17 達成率：56.7%
令和4年度	オンラインを利用し、SSH校及び理数科でこれまでに行われてきた課題研究の手法及び指導法の県内高等学校への普及をした。また、大学、研究所等の外部機関と連携した課題研究やフィールドワーク、他県の生徒との科学学習会を実施した。新型コロナウイルス感染症の影響でしばらくできていなかった校外研修等も一部再開した。
	指標① 目標：30 実績：19 達成率：63.3%

2 事業の評価と課題

(事業の評価)

<ul style="list-style-type: none"> ・事業の必要性(社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断) 3:増加している 2:横ばい 1:減少している 0:ほとんどない 	
(評価) 3	高等学校では、これからの社会で求められる、根拠をもって思考する力や説明する力、課題を見つけ解決する力を身に付ける必要があるため。
<ul style="list-style-type: none"> ・事業の有効性(指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか) 3:期待以上の成果あり 2:期待どおりの成果あり 1:期待どおりの成果が得られていない 0:ほとんど成果が得られていない 	
(評価) 2	各校において、学校の実態や地域性等に応じた取組が行われている。
<ul style="list-style-type: none"> ・事業の効率性(事業の実施方法の効率化は図られているか) 2:上がっている 1:横ばい 0:下がっている 	
(評価) 2	前年度の活動状況等を踏まえ、各校において必要物を精査し、事業目標の達成に向けた取組を実施している。

(今後の課題)

<ul style="list-style-type: none"> ・事業が直面する課題や改善が必要な事項 地域社会や地元企業との一層の連携
--

(次年度の方向性)

<ul style="list-style-type: none"> ・継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか 新学習指導要領でも探究的な活動の重要性が明記されており、今後も課題研究を中心とした探究的な学習に関するカリキュラム開発を進めるとともに、その成果の普及に取り組む。
--

(他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果)

組み合わせ予定のイベント 又は事業名及び所管課	
組み合わせる理由 や期待する効果 など	【〇〇課】